

平成27年度花巻市地域自治推進委員会（第2回）【記録】

日時 平成27年10月13日（火）午前9時30分～11時50分
場所 花巻市役所本庁舎3階 302会議室
出席者 委員10名（岩渕会長、川村副会長、佐藤委員、久保田委員、小野委員、熊谷委員、高橋委員、齊藤委員、坂本委員、福盛田委員）
※欠席委員：小原委員、古川委員
事務局8名（八重樫総合政策部長、藤原建設部長、久保田地域づくり課長、井元都市再生室主幹兼次長、小松都市再生室主査、佐々木地域振興係長、松田上席主任、幅下主事）
説明者2名（伊藤秘書政策課長、中村都市政策課長）

内 容

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協 議
 - (1) 立地適正化計画を活用した今後の「まちづくり」について
 - (2) (仮称)花巻市人口ビジョン(案)について
 - (3) (仮称)花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について
- 4 閉 会

久保田地域づくり課長 ただ今より、平成27年度第2回花巻市自治推進委員会を開会いたします。開会にあたりまして花巻市総合政策部長よりごあいさつ申し上げます。

八重樫総合政策部長 お忙しい中ご出席ありがとうございます。本日は人口減少対策、市街地の再生という大きな課題を協議いただくこととしております。よろしくお願いいたします。

久保田地域づくり課長 岩渕満智子会長よりごあいさつを申し上げます。

岩渕会長 おはようございます。本日は平成27年度2回目の自治推進委員会ということでございます。よろしくお願いいたします。

久保田地域づくり課長 それでは、本日の議事に入らせていただきます。花巻市自治推進委員会条例第4条第2項によりまして、議長は会長にお願いしたいと思います。岩渕会長、よろしくお願いいたします。

岩渕会長 本日協議いただく案件は3件です。担当課から説明をいただいた後に、皆さんから意見をいただきたいと思います。はじめに立地適正化計画を活用した今後のまちづくりについて、担当の都市政策課都市再生室から説明をお願いいたします。

中村都市政策課長 「協議(1)立地適正化計画を活用した今後の「まちづくり」について」説明

岩渕会長 ご意見があれば出していただきたいと思います。いかがでしょうか。

齊藤委員 資料4ページ目の“喫緊”という表現は、今後もこの資料によって市民に説明していくことを考えると“緊急”と改めた方が分かりやすいと思う。また、

この計画は人口密度に対応する政策を考えるものだろうが、花巻市は面積が非常に広く、高齢化の問題もあるので公共交通についても見直ししてもらいたい。

中村都市政策課長 交通計画については、別途に案を作成して皆様に話す機会を設けたい。公共交通は維持確保していきたいが人口減少とともに路線バスの利用者も減っており、何か良い方法がないものか思案している。

坂本委員 車を持たない人、運転できない人にとっては路線バスがなければ困ることだ。

藤原建設部長 公共交通については、デマンドを活用した計画を東京大学に協力いただきながら検討している。

中村都市政策課長 市内の主なところで路線バスを維持していく必要はあると思う。地域の中心部に行ける身近な交通機関としてデマンドタクシーを活用しているところもあるので、これらを上手く組み合わせられないものか考えている。

坂本委員 仙台市では郊外のホテルの送迎バスを路線バス化してスーパーや病院に寄っている例もあるようだ。花巻市でも温泉のバスを活用できるのではないかな。企業との連携も必要ではないか。

高橋委員 この内容をみると、市の周辺部に暮らす者にとっては何となくさみしい内容だ。1番の問題は人口減少によって若い人達がいなくなること。私達のような高齢者が何回も会議するよりも、もっと若い人達を取り込んで計画作りをしていくべきではないか。

中村都市政策課長 立地適正化計画そのものは街中に絞った計画で、市全体の人口減少対策については総合戦略の方で検討しているところ。若い人達を取り込んでいくことが大事であることはその通りだと思う。

久保田委員 この計画は20年、30年後の花巻市のこと。若い人達を中心として戦略を作ってもいいのではないかな。また、全体の人口が減っていく中で、花巻市だけが人口の維持のために北上市や紫波町から人口をもってくるというのは果たして可能なのかな。むしろ、交流人口を増やすために、花巻市に宿泊した方を街中に来てもらえるような街中エリアの開発をしてはどうか。

藤原建設部長 若い人達の意見を聞くのは確かに大事なことだが、皆様からの貴重な意見もいただきたいと考えている。人口減少については隣町同士からではなく首都圏から人口が流入するようなことを考えている。

中村都市政策課長 現在、若い方が街中で様々な活動をしている。小友ビルでも30～40代の方々や大学生がグループを作って取り組みを始めているので皆さんにも応援していただきたい。

坂本委員 かつて、シニア大学に参加されていた方で、花巻市内の誘致企業を退職して市内に家を建てた方がいた。花巻市に住むことにした理由を聞いたところ、テニスもゴルフも安くできるし、病院も充実していて、歩いて行けるところに色んなものがあるので住みやすい、都会に帰る必要はないなどと言っていた。ところが、ある一定の年齢になったとき雪払いがとても大変ということで帰ってしまった。こういったところに何か対応できれば、せっかく花巻の良さを分かって住んでくれた方なので、そのまま住み続けてくれたのではな

いかと思った。

- 熊谷委員 総合花巻病院が厚生病院跡地に移動するという話が聞こえているが、移転するにしてもスペースが窮屈のような気がする。岩手医大が矢巾町に移転する大きなプロジェクトに比べると貧弱な気がする。
- 岩淵会長 福盛田委員、何かご意見ありませんか。
- 福盛田委員 市政懇談会等で内容を聞いているので特に意見はない。
- 小野委員 花巻市がこれからどのような街になるのか、期待もあるが不安もある。上町や吹張町はシャッター通りとなってきているがマルカンの食堂だけは賑わっている。これは、気軽に入れるうえに、安くて美味しい、楽しめる所だからだと思う。上町の空き店舗を使って若い人達に働いてもらいたい。また、サークルでまなび学園を使っているが音楽的環境が寂しい。空き店舗をスタジオにして音楽活動している、幅広い年代の人達が活動できるようにしてもいいのではないかと思う。
- 佐藤委員 商業施設が郊外にでき、中心部の空洞化が進んでいる中で、街中再生に向けた立地適正化計画に取り組んでいただけるのは非常にありがたい。医療施設や図書館等の公共施設が中心部にできることの効果に期待している。集合住宅の建設計画もあるようだが、それに加えて商業施設も発達していかなければならないのかなと思う。
- 川村副会長 居住誘導区域の地価がどの位で安定するかにもよるが、おそらくは居住誘導区域の近郊の地価にも影響があるだろうと思う。居住誘導区域の近郊は地価が比較的安く、交通の便も良いところもあるので、中古住宅なども結構売れているよう。
- 岩淵会長 色々なご意見を伺ったが、まちづくりを考えた場合、こうした制度があることは個人的にはよいと思う。若い人達にも考えてほしい問題だが、そのためのきっかけとして私達の考えを聞いてもらい、そのうえでそれぞれが考えていくのが大事ではないかと思う。
- 高橋委員 バスの話があったが、ほとんど客が乗っていないルートも見られる。何か別の方法を考えなければ無駄なお金を使うことになる。北上線がなくなることでも地域の方が騒いでいるけども、実際にバスに乗る人がいない。
- 藤原建設部長 笹間線を利用しているが貸切状態の時もある。地域の人と検討していきたい。
- 岩淵会長 他に意見がないようなので、この件については以上とします。続いて案件の2件目、(仮称)花巻市人口ビジョン(案)についてと、3件目の(仮称)花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について、担当の秘書政策課から説明をお願いいたします。
- 伊藤秘書政策課長 「協議(2)(仮称)花巻市人口ビジョン(案)」及び「協議(3)(仮称)花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」について説明。
- 岩淵会長 これらの案件は、先に“素案”として本会で協議されていますが、今回は“案”ということでございます。皆さんからのご意見をお願いいたします。

- 坂本委員 先日、末広町の運動会が行われたが参加した子供が10人未満であり、その他は老人クラブの方だった。今回の人口ビジョンの内容は実感としてあるし、なんとかしなければいけないと思う。
- 岩淵会長 小舟渡地区では、住宅や児童数が増え、地域活動を行ってもやりがいがある。
- 小野委員 6～7歳くらい離れた兄弟がみられるようになった。親がゆとりをもって子育てできる環境を整えば、子供が増えるのではないかと。安心して子育てできることが人口増に繋がるのではないかと。
- 福盛田委員 矢沢地区では人口は増えているが、一方で転出する者も多い。転入される方の中には父子・母子家庭の方もいる。再婚できればいいが、一人で大変そうな方もいる。そうしたことへの対応がないと人口増には繋がらないのではないかと。
- 齊藤委員 婚活支援については、花巻市役所も市内では大きな事業所なので、何かしらの取組みを地域に見せてほしいところ。また、結婚しても子供がなかなか産まれない方も多くいる。これには幼児期からの食生活が関わっているのではないかと話もあるので対策をしてほしい。
- 久保田委員 人口減少は花巻市だけではなく全国共通の課題だと思う。出生率を伸ばすことも必要だが、交流人口を増やしていく取り組みも必要であり、むしろ現実的ではないのか。観光庁のデータによれば観光客のうち宿泊客が26人で定住者1人、日帰り客が83人集まると定住者1人の消費量に相当するとのこと。人口が減る中で、経済をどう維持していくかを考えると、観光客を増やすことをもっと積極的にした方がいいのではないかと考える。花巻市には宮沢賢治や温泉があり、よい素材があるので最大限に使って人口維持を図っていくという考えも必要だと思う。
- 岩淵会長 花巻市の人達に花巻の魅力を聞いても「何もない」と答える方も多いよう。謙遜の意味もあるのかもしれないが、もっと自信を持って地域の魅力を発信することも必要だと思う。
- 齊藤委員 市民の意識づくりが一番重要だと思う。高齢化が進んでいるのであれば、逆に高齢者の知恵を生かす工夫をするような、あるもので勝負しなければいけないと思う。また、地域コミュニティ会議を利用しながら地域の良さがわかれば婚活、UIJターン等にもつながると思う。
- 久保田委員 これからは滞在型観光を中心に展開していかないといけない。観光客を増やすためには地域に魅力がないといけない。観光コンテンツのメインが街中にほしいが、例えばマルカンの箸で食べるソフトクリームのようなものが街中にもっとあれば滞在期間も延びると思う。花巻の魅力を感じながら温泉に泊まってもらうのが理想だが、今は温泉に泊まってすぐに市外に出て行ってしまふ。これでは花巻の街中の経済は衰退していく。もっと街中の魅力づくりを進める、現在あるもの活用するということが大切だと思う。
- 福盛田委員 若い観光客は温泉だけでなく、雑誌で紹介しているような食べ歩き・見て歩きが目的で、いかに安く、美味しいものを食べてまわれるかが大切。賢治記念館、新渡戸記念館など知識を求める人はまた来るだろう。地域の街で魅力のあるところを紹介するのであればマルカンだけでなく、もっと巡って歩いて、安く泊まれるところが欲しいと思う。

高橋委員

私はゲートボールをやっているが、宿泊施設が多いためか県大会等を花巻市で開催してはどうかとの声がある。ただ、花巻市には冬場にスポーツできる多目的ドームがない。例えば花巻空港跡地に多目的ドームを作るという考え方を持ってもいいと思う。施設と合わせて人を呼んで活性化させることも大事だ。花巻市は岩手県の中央にあるので真剣に考えて欲しい。

佐藤委員

花巻市は宮沢賢治生誕の町であり、観光客を街中に呼び込もうと企画している。賢治ゆかりの地であるだけでなく、城下町でもあるので、こうした歴史を観光資源として活かしていきたいと考えている。さらには、雑穀栽培も盛んなので、ひえ料理を使った観光スポットを作っていきたい。皆さんと協力しながらやっていきたい。

岩渕会長

まちづくりを進める方々がどの位危機感を持っているのかが重要だと思う。地域ぐるみの子育て支援についてはずいぶん前から言われていること。やって欲しいということは言葉では簡単に言えるが、実際進めることは大変なことではあるが、子供や親が集まることができる場所を地域で設けることができればいいと思う。いずれにせよ、急いで進めるべきことが多く、できることから地域のコミュニティ会議等で交流しながら進めていったらいいのではないかと思う。

他に意見はありませんでしょうか。ないようですので委員会を終了いたします。ありがとうございました。